

大会名 Competition	秋田国体記念 第20回能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-109	Year Month Day Time 2007 年 5 月 5 日 14 : 10
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A		チーム B
市立船橋高	( 14 1st 13 16 2nd 27 18 3rd 32 16 4th 19 OT )	延岡学園高
64 ●		91 ○

主審:Referee  
渡邊 整 (栃木)  
副審:Umpire  
小野寺 浩 (秋田)  
テーブル・オフィシャル:Table officials  
能代西高校

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4		神 佳 希	CAP	-	-	-	-	-	4	／	福 留 貴 明	CAP	3	1	0	0	1
5	×	岩 井 俊 憲		0	0	0	0	4	5	×	シダット ジャーラ		30	0	13	4	1
6	×	三 富 修 平		0	0	0	0	2	6	×	和 田 力 也		9	1	2	2	1
7	×	遠 藤 祐 亮		13	1	3	4	4	7	×	永 吉 佑 也		15	0	7	1	0
8	×	星 野 拓 海		30	6	5	2	0	8	×	前 田 陽 介		16	4	2	0	3
9	／	小 出 翼		4	0	2	0	2	9	／	重 永 和 樹		0	0	0	0	2
10	×	西 信 之		10	0	5	0	4	10	×	内 村 祥 也		7	1	2	0	2
11	／	和 田 保 彦		7	0	3	1	1	11	／	大 坪 将 太		0	0	0	0	0
12		河 合 智 平		-	-	-	-	-	12	／	川 口 裕 也		1	0	0	1	0
13		常世田 政 明		-	-	-	-	-	13	／	湯 地 寛 文		0	0	0	0	1
14		實 川 一 輝		-	-	-	-	-	14	／	中 村 友 哉		0	0	0	0	0
15		野 口 翔 志		-	-	-	-	-	15	／	川 元 崇 史		8	2	0	2	1
16		會 田 一 步		-	-	-	-	-	16	／	横 瀬 孝 樹		0	0	0	0	1
17		森 川 翔 太		-	-	-	-	-	17	／	山 口 涉		0	0	0	0	1
18	／	藤 岡 昂 希		0	0	0	0	1	18	／	川 畑 卓 也		2	0	0	2	0
コチ		廣 田 誠							コチ		北 郷 純一郎						
		合 計		64	7	18	7	18	アコチ		長 倉 慶一郎						
											合 計		91	9	26	12	14

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P\* イントシュート 2P:2P\* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

能代カップ最終日の第4試合は、共に全国常連チームである市立船橋と延岡学園という好カード。両チームとも全国大会で実績を残しているチームだけに注目が集まった。

1Q、両チームともマンツーマンでスタート。先制したのは市立船橋。#8星野の3Pシュートで幕を開ける。序盤、延岡は#5シダットの高さを生かしボールを集めようとするが、市立船橋の堅いディフェンスの前にミス連発。思い通りの展開へ持ち込むことができない。一方、市立船橋は延岡#5シダットを徹底的にマーク。スティールから#7遠藤のジャンプシュート、#8前田の3Pへ結びつけるなど積極的に攻め続ける。対する延岡も#5シダットのゴール下シュート、#7遠藤のシュートなどで必死に食らいついていく。結局14-13の1点差で1Q終了

2Q、1Q同様、市立船橋は必死のディフェンスでオフェンスの流れを掴もうとする。延岡も#5シダットに徹底的にボールを集め、ゴールしたシュートや味方を活かすプレーをする。残り7分、それまで一度もリードしていなかった延岡がついに逆転する。しかし、市立船橋もすかさず取り返す。その後、一進一退の攻防が続く。27-30の延岡が3点リードで迎えた残り3分、延岡#4福留の3Pシュートが決まり、6点差となる。このシュートをきっかけに連続シュートが決まり、11点差となったところで市立船橋はタイムアウトを請求。流れを変えようとする。終了間際に市立船橋も#8前田が3Pを決め意地を見せるが、結局30-40の10点差となる。

3Q、延岡がゴール下を支配し始める。#5シダット、#7永吉のゴール下シュート、#8前田の3Pシュートで市立船橋を引き離しにかかる。対する市立船橋も、#8星野の3Pや#10西のレイアップシュートで対抗するが、得点差を縮めるには至らない。結局、このまま3Q終了。48-72の24点差で延岡がリードする。

4Q、必死に追いかけていたい市立船橋だが、延岡の安定したゲーム展開になかなか思い通りの試合をすることができない。また、シュートは打つものの精細を欠き、約4分間ノーゴールで試合が進む。それでも、粘り強いプレーでゴールを奪おうとする。対する延岡は、ゴール下を完全に支配し試合を優位に進める。市立船橋は#11和田のジャンプシュート、#10西のレイアップシュートで意地を見せるが、点差を詰めることができずに試合終了。結局、高さで総合力で上回る延岡が市立船橋を圧倒する結果となったが、市立船橋の最後まで試合を諦めず、ひたむきに頑張る姿と迫力あるプレーに観客は魅了された。